



### 九条の会・東京連絡会の講演会に参加して

九条の会・東京連絡会で4月13日(月)18時30分から一橋大学教授渡辺治氏の講演「激動の中の憲法-9条と25条-」がコアいけぶくろ-豊島区民センターであり、参加してきました。参加者は定員240名のホールに200人以上はいたと思います。

先生はレジュメと良い資料を用意され、歯切れよく解りやすく1時間半にわたって熱弁を振るわれ感銘を受けました。

項目としては、①安倍政権の改憲策動はなぜ挫折したか、麻生政権はどう打開しようとしているか、②自公政権の構造改革路線はなぜ行き詰ったのか、麻生政権はどう打開しようとしているのか、③政権交代で改憲・構造改革はどうなるのか、④改憲を阻み、憲法を実現するためには、等で、派遣村に象徴される25条(国民の生存権、国の社会保障的義務)とも関連付けて話されました。

講演後、杉並青年9条の会の野坂さんと練馬9条の会の大柳さんの活動報告があり、気持ちの良い集会でした。  
野間口 至

### 「生かそう憲法 輝け9条」 5・3憲法集会に参加して

5月3日、憲法集会(憲法会議、許すな憲法改悪市民連絡会など8団体で構成する実行委員会)が、日比谷公会堂で開かれた。開場2時間前から長蛇の列で、物々しい警備の中、外のオーロラビジョンを視聴する人など4200人の参加で、憲法を守る思いの熱気に包まれた。

作家の落合恵子さんは、この国を「自己責任」という言葉が駆け回っている。国は憲法で健康で文化的な生活を営む権利を定めながら、介護を求めることや職や家を失うことを「自己責任」とするなど、国民ひとり一人の権利が侵害されている。残りの人生もっと『怒髪』になって頑張る、と決意をのべた。

ノーベル物理学賞受賞者の益川敏英さんは、「憲法九条改悪のきな臭い匂いがしている。解釈改憲でソマリア沖まで行ったが、交戦権がほしいために憲法を変えなきゃいかんと思っている。日本人の九条に対する思いは軽くない。世界は大きく変わろうとしている。人類の歴史は確実に進歩している。平和憲法の危機を日本人は乗り越えてほしい。改憲派はやけどをするでしょう。この決戦はやり直しはきかないので周辺の人に伝えてほしい。私も老骨にむち打ってがんばる」とユーモアを交えてスピーチ。

日本には世界に誇れる憲法九条があるので、兵器・武器の輸出や自衛隊のイラク・ソマリア沖での海外派兵で、自ら武力行使を行うことはできません。憲法九条を守り・生かす闘いと核兵器廃絶を求める闘いを大きく発展させることが、「戦争のない世界」、「核兵器・核戦争のない世界」を築いていくこととなります。改憲派の「憲法改正・戦争する国づくり」の動きに注意し、これを圧倒する運動を展開していきたいものです。 小澤 満吉

### 最近の新聞記事から

5月3日の憲法記念日の前後には、各紙とも憲法に関する記事が目立ちました。国会では、憲法審査会の設置を巡って、自民党が強行を図ってきています。また来年には国民投票が実施可能になります。選挙も近づいています。目をしっかりと開いておきましょう。  
伊東

**9条改正 高校生6割反対**

高校生の六割が戦争放棄を考えた憲法九条を変えない方が良く考えていることが二十三日、日本高等学校教職員組合日高教の高校生憲法意識調査で分かった。調査は昨年十一月に二十八道府県の百四十八校を対象にし、一万二千二百八十六人が回答した。憲法九条を変えない方が良いと答えた割合は、二〇〇四年の前回調査の四三・九%から六〇・九%に上昇。変える方が良いは二一・五%だった。変えない方が良いとした理由は「戦争への道を開くおそれがある」と圧倒的だ。「非核三原則を堅持すべき」が八四・一%と多数を占めた。

法九条を変えない方が良く回答した割合は、二〇〇四年の前回調査の四三・九%から六〇・九%に上昇。変える方が良いは二一・五%だった。変えない方が良くとした理由は「戦争への道を開くおそれがある」と圧倒的だ。「非核三原則を堅持すべき」が八四・一%と多数を占めた。

自衛隊については「憲法に違反しない」が二四・八%で「違反する」の一九・三%を上回ったが、「どちらでもない」も三三・七%に上った。徴兵制には「反対」が七五・三%と圧倒的だ。「非核三原則を堅持すべき」が八四・一%と多数を占めた。

方が良い理由では「今の憲法で対応できない新たな国際的問題が生じている」が四三・三%で最多。

**日高教調査**  
04年比17%増

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、  
「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～  
+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++

## 戦時中・戦後の体験で思うこと

野間 正雄 (代田1丁目在住)

1942年(S17年)杉並区立高井戸第四小学校(国民学校)に入学した私は、1944年(S19年)9月、3年生の時に学童疎開に行きました。上級生(4~6年生)と一緒に。疎開先は宮城県登米郡で、男子は石森という町で、女子は列車で2駅先の港町・佐沼という大きな町でした。姉は5年生で佐沼にいました。私は用事が出来て『特別許可証』を引率の先生からもらって列車に乗り姉のところへ行きました。姉の宿舎に行きましたが、中に入ることができません。例え弟であっても男である限り女子の宿舎に一步も入ることが出来ません。止むを得ず、港に流れる川の橋の上で用件を話しました。

この用件とは? ~ ~ ~

1944年12月母校高井戸第四小学校(杉並区西荻南1丁目)が米空軍の空襲で全焼してしまいました。この空襲は、中島飛行機(杉並区阿佐ヶ谷)を爆撃した時と同時のものです。学童疎開の場で、引率の先生方から校舎全焼の話があり、「帰る学校が無いので縁故疎開できる人はそうして欲しいと東京で家庭に連絡を取っている。まもなく家族が迎えに来る人がいるだろう。」とのことだった。その後旧友たちは次々と家族が迎えに来た。1945年3月になって私を迎えに来たのは兄(当時秋田高専鉱山学科その後北大地質研究科に進む)だった。私は(以前に用件を伝えてある通り)兄と共に姉を佐沼に迎えに行った。父母妹と待合せる場所は青森駅青函連絡船改札口前だった。6人が無事合流できたものの、連絡船は3日間出航しなかった。空襲警報が出たためだった。北海道日高への家族疎開は縁故者が誰一人いない旅だった。1945年3月のことだった。(以下つづく)

①鷲塚鷲太郎のこと ②日本国憲法1946年11月3日、教育基本法1947年3月31日、『あたらしい憲法のはなし』1947年8月2日、文部省、③アイスキャンディ事件と『みそのマンスリー』(生徒会新聞)1950年6月。

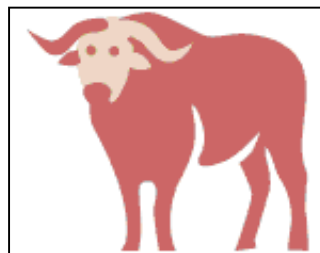
### 第4回世話人会開催のお知らせ

日時: 5月16日(土) 10:00~12:00

場所: 代田南地区会館 (代田1-21-11)

議題: (1) 野間正雄さんの話  
(2) この間の活動の報告  
(3) 活動の予定

ほか



### 集会等の紹介

5月27日(水) 18:30~ 生かそう憲法!今こそ9条を!世田谷の会 総会

世田谷区民会館集会室

記念講演 「貧困も戦争もない世界へ」湯浅誠さん(自立生活サポーターもやい事務局長)

6月2日(火) 18:30開会 九条の会講演会 - 加藤周一さんの志を受けついで

日比谷公会堂

前売券1000円(当日券1500円)

講演: 井上ひさし、大江健三郎、奥平康弘、澤地久枝

うた: 「さくら横ちょう」(詩・加藤周一 作曲・別富貞雄) ソプラノ・大橋ゆり

主催: 九条の会事務局

電話 03-3221-5075 FAX 03-3221-5076

東京都千代田区西神田 2-5-7-303



お願い: 平和や憲法に関して感じていることや、戦争の体験などの原稿をお寄せください。

#### 日本国憲法

- 第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない